Tokyo OT
2023 September No.212

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　田中勇次郎

13年目で思うこと

長汐病院　**清水　隆志**

東京都作業療法士会ニュース巻頭言の依頼を頂き、作業療法士13年目の未熟な自分が何を伝えられるのか悩みました。悩んだ末、職場の新人さんに「先輩に何を聞きたい？」と尋ねたところ、「何を学んでいったら間違いがないですか」との返答がありました。そこで今まで自分の体験や考えていたことをお伝えして、作業療法とは何かを考えるきっかけにしてもらえたらとの思いで原稿を作成いたしました。

私が学生の時から、作業療法は関われる領域が広く、対象となる方の価値観までも含むことから、難しい職種という先入観から作業療法士の魅力に疑問をもっていました。その様な時に恩師が作業療法士の魅力について「作業療法士として人と関われること」と話してくれたのを覚えています。当時の私は、人との関わりが重要なのかな？と単純に解釈し、その意味を理解していませんでした。その様な私は身体障害領域の病院に入職して２年目まで、リハビリは身体・精神機能と活動面の自立度の向上をおこない、自宅退院を目指していく事だと考えていました。また対象者の機能向上ができる療法士になりたいという思いもあり、数多くの手技を学習するために様々な研修に参加していたことを覚えています。研修で学んだ良い所取りをしていけば、いつか良い作業療法士になれると漠然と思っていた時期でした。結果的には知識が増え、ある程度機能面にアプローチができる作業療法士となりました。しかし、考えが機能面に偏り過ぎたため、退院後の生活に焦点をあてた際、漠然とした生活しか考察ができない療法士になっていました。

その様に悩んでいた私に方向性を示してくれたのが、先輩と生涯教育制度の研修でした。先輩の担当していた方は御高齢で大腿骨頸部骨折を受傷し自宅生活をする自信を失っていました。先輩は自宅での役割を確認し、それに向けて具体的な目標とプログラムを、本人とその都度確認し病棟スタッフ、家族、ケアマネージャーなどの他職種に協力を得ながら進めていきました。結果として役割に対して自信持って自宅に退院することができました。生涯教育制度の研修では、あやふやであった基礎的な知識と生活行為向上マネジメントを学習し、偏った評価を修正することができました。今なら恩師が話した十人十色の価値観を持つ対象の方の営む生活行為に支援できる作業療法士の魅力に頷ける自分がいます。

最後に新人さんの質問の件の答えですが、私の考えとしては興味を持った事から勉強する方が、モチベーションが維持しやすいので良いかと思います。それと是非作業療法を再度学習してみることをお勧めしたいです。

CONTENTS

◆13年目で思うこと…❶
◆第19回東京都作業療法学会の報告…❷～❹
◆子ども委員会活動報告…❺
◆～令和５年度東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修会　実施報告～…❺
◆認知症の人と家族の生活支援委員会　活動報告…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.40…❻
◆保険部　Letter ～障害福祉サービスにおける就労支援について～…❼
◆IT機器レンタル事業対象研修会「IT機器を活用した作業療法支援」…❼
◆自動車運転と移動支援対策委員会　活動報告…❽
◆就労支援委員会活動報告…❽
◆都士会とOT協会における災害対策…❾
◆ブロック活動のお知らせ…❿
◆教育部…⓬
◆編集後記…⓬

第19回東京都作業療法学会の報告

第19回東京都作業療法学会実行委員　広報担当　NTT東日本関東病院　**森田　将健**

去る７月２日、順天堂大学７号館で東京都作業療法学会が開催されました。学会には都士会員以外も含めて過去最高（アーカイブのみの参加者を含め）515名の作業療法士の方に参加いただきました。中央線沿線で開催されたことから、都心部の会員だけではなく、西多摩、南多摩方面からの参加者も多く、アーカイブ配信もされていることから見直しの機会も得られ、学会後のアンケートでも90％以上の方から学会の内容について満足をいただきました。それでは各実行委員からのメッセージを以下に記載します。

事務局・会計担当　東京医科歯科大学病院　山本　司

４年ぶりの対面での学会で、実行委員としては、なにも分からないところからスタートしました。

事務局としては公文書の作成やメールでのお問い合わせの担当をさせていただきました。多くのお問い合わせをいただきましたが、発信する情報が少なかったり、不慣れだったりと至らぬ点も多かったと思います。

開催までは多くの不安もありましたが、結果的に参加者は400名を超えました。多くのボランティアの方々のご協力もあり､大きな事故なく終了することができました。学会運営としては多くの課題も見えましたので、より多くの方が安心して参加できる都学会になるよう、この内容は次年度の実行委員に引き継いでいきたいと思います。参加者の皆様、ボランティアの皆様を含めまして、本学会に関わってくれたすべての方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

企画・プログラム担当　聖路加国際病院　阿部　幸太

第19回東京都作業療法学会の運営を通して、個人としては、作業療法の世界を職場以外の角度からみることができ、様々な作業療法実践、作業療法士の働き方を知ることで、視野がひろがったと体感しています。また、中央南部ブロックとしては、委員同士の絆が強くなり、今後のブロック運営へのプラスになったと感じております。このような普段の仕事とは違う体験をぜひ一緒に行っていきませんか？ブロック活動に興味ある方は下記の連絡先までよろしくお願い致します。連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

会場運営・参加受付担当　台東区立台東病院・老人保健施設千束　渡辺　紋子

東京都作業療法学会では初めて、順天堂大学を使用させていただきました。講堂の最新システムと格闘するところから始まり、録音録画を含めた、複数教室同時進行というプログラムに対峙すべく、開催直前まで調整と修正、練習を重ねておりました。学会当日は、実行委員だけでなく、撮影業者の方や当日ボランティアの方々を含めた皆様のご協力のもと、大きなトラブルなく学会を運営することができました。実際に顔を合わせることができた参加者の皆様へも、感謝の気持ちでいっぱいです。

他にも演題募集・査読　抄録担当　東京工科大学　池田晋平さんや、途中で体調不良から休養を余儀なくされた先生方、HPを作成してくれたICTリハビリテーションの林さんと濱中さん、都士会の中里事務局長、都士会広報の水口さん、撮影代行・システム調整を行ってくれたイーボンド・パートナーズ様、会場ボランティアの方々等、感謝をしてもしきれない方々に、たくさんの協力をしていただきました。ブロック委員は無償で実行委員を引き受けてくださり、お金にはならずとも自分への、OTへの、未来への投資と積極的に都学会を盛り上げてくださいました。また、大会長の順天堂大学病院（当時）の阿瀬寛幸さんは無茶ぶりでの大会長依頼に答えていただき、最後までいろいろと動いていただきました。実行委員全員が学会の運営を行った経験がまったくない状況の中、実行委員長の東京都立荏原病院の大村隼人さんにも多大なるご迷惑をおかけしました。大村さんが都士会の理事を担っていたことで分からない事をすぐに解決していただき、何とか乗り越えたというのが実行委員一同の実感だと思います。

実行委員の各リーダー以外からも運営する側に立って初めて、「こんなにも大変だったのか」と実感したとの声を数多く聞きました。実行委員会が立ち上がってから（各リーダーによって忙しさの時期は異なりますが）、連日深夜１時過ぎまでやり取りを繰り返し、会議に３時間以上かかる事もありました。個人個人の負担も大変大きく、反省会でもいろいろ課題が残る運営方法に侃々諤々の意見交換がされました。いくつかの問題点を次期開催の運営委員とも共有することができました。また都士会への要望もまとめて大村さんから都士会に課題として挙げていただくこともできました。私たちは作業療法士であり、学会運営のプロフェッショナルではありません。それでも少しずつ、「OTを良くしたい」、「臨床に役立てたい」、「後進に少しでも身になるものを提案したい」と頑張りました。その結果が今回の満足度につながったことが、今となれば実行委員同士で協力して乗り切った充実感と、学会後のアンケートの満足度の高さからも、充実した学会を開催でき都士会員の役に立った有用感も得られとてもうれしく思っています。

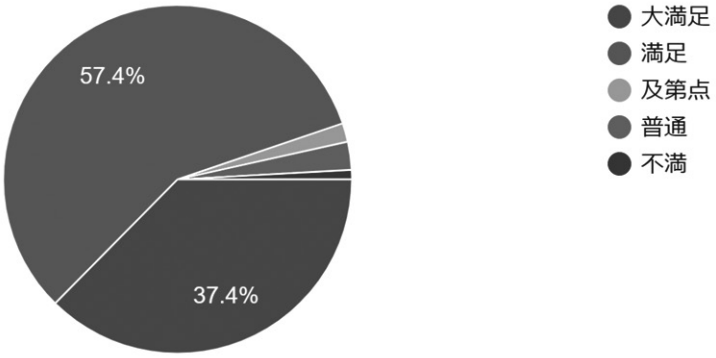
私自身、若手のOTを各実行委員へ引き込み、負担を増やしてしまったと反省する一方、改めて自分の職場以外のOTと連携することの大切さや協力関係を築く楽しさを学び良い経験を得られたとの言葉で救われたような気がします。

運営する側も、参加する側も大きく成長でき、視野を広げ、今まで見られなかった一面に目を向ける経験ができたと思います。参加者の皆様、実行委員の皆様、大変ありがとうございました。今回参加できなかった方も、次回の学会に参加するなり、実行委員に参加するなり得難い経験を積む良い機会なので、ぜひ次回以降の学会に参加してみてください。実行委員経験者は違った角度から見ることができると思いますし、参加者の方々も裏でどれだけたくさんのスタッフが皆さんの臨床に役立つためにできることを考えているのか、少しでも実感していただければ幸いです。

改めてOTのやさしさと懐の深さを実感させていただきました。繰り返しになりますが皆様本当にありがとうございました。

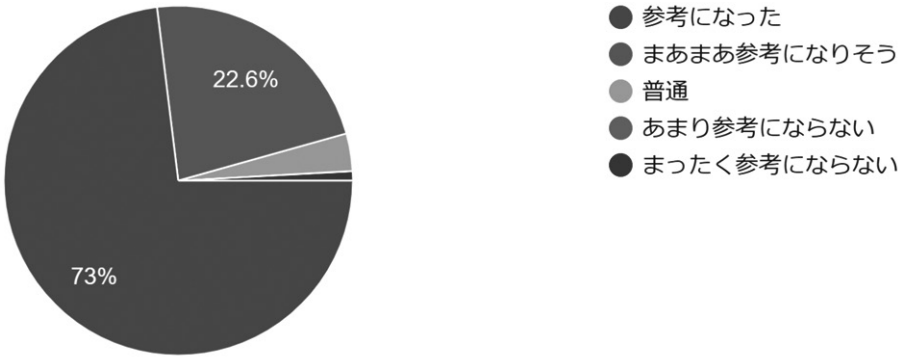
今回の学会の内容は満足のいくものでしたか？

115 件の回答



今回の学会は参考になりましたか？

115 件の回答



子ども委員会活動報告

子ども委員会　**飛田　孝行**

７月２日に行われた東京都作業療法学会で、子ども委員会企画のワークショップ「“かく”について考えよう」を開催しました。企画準備の話し合いでは、発達OTならではの思い切った企画をしたいという思いから、OTならではの「かく」という活動に焦点を当てて、自由なディスカッションとしました。対面での企画が久しぶりで、どのくらいの人が参加するのか、上手くファシリテートできるかなど、ワクワクと不安な気持ちで当日を迎えました。

オープンすると参加者は予想を超える36名で、発達領域以外にも身障、老年期、精神領域の方、学生など領域や立場も多様でした。「かく」というOTならではのテーマにが参加動機につながったという意見が聞かれました。どのグループも活発なディスカッションがなされ、対面ならではのアナログな付箋を使って、意見を整理していきました。ディスカッション後のシェア場面では、どのグループもそれぞれ違った意見が共有されました。「かく」という活動（作業）から考えるOTのアイデンティを感じる事ができました。

アンケートから、満足度は高く、理由として「交流できてよかった」「対面の良さ」「グループワークがもう少し長く」など、参加者が学会テーマである「face to face」を待ちわびていた事が伺えました。改めて東京都作業療法学会が、年に一度成果を持ちよったOTの交流の場となっている事を感じました。今後も皆さんのニーズに応じた企画をしていきたいと思います。

～令和５年度東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修会　実施報告～

地域づくり共創部　**馬場　博文**

７/１に東京都理学療法士協会・東京都言語聴覚士会との三士会合同で、東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修を実施しました。今年度は都学会の前日開催でもあったため、人数が集まるのか不安ではありましたが、募集を開始するとあっという間に定員に達してしまい、そのため急遽募集定員を増やし追加募集するほどに大盛況でした。皆様の地域への興味・意欲が非常に高い状況に驚き、嬉しい限りです。

当日の研修会では、地域包括ケアシステムや介護予防・地域づくり・地域ケア会議についての講義を受け、その後は模擬地域ケア会議を実施し、グループワークでは参加されたPTさん・STさんと積極的なディスカッションを実施することが出来ました。ご参加頂いた皆様には事前課題等、業務の合間を縫ってご協力を頂きありがとうございました。今回惜しくも参加出来なかった方もいるかと思いますが、来年度以降も継続して開催予定となっておりますので、地域に興味のある方は是非参加してみてください。

また、昨年度・今年度の東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修の受講者を対象に、11/14（火）夜間にアドバンス研修の開催も予定しております。今回は、地域ケア会議における地域資源の活用や地域課題の発見/解決に焦点を当てた事例検討会の開催を計画しております。是非こちらも皆様の奮ってのご参加をお待ちしております！！

認知症の人と家族の生活支援委員会　活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会委員　**野本　潤矢**

当委員会から活動報告と今後の予定をお知らせいたします。

５月に開催された東京新聞ヘルスメイツケア事業では、新聞を用いた回想法プログラムを行いました。ボランティアの方を含めて48名が参加され、時事、スポーツ、ライフスタイル、文化芸能の４つのテーマを題材として思い出話などで盛り上がりました。

また、第19回東京都作業療法学会では、「認知症を持つ人への活動評価から個別支援まで：プール活動レベル（PAL）を用いて」というセミナーを開催しました。PALを使用したことない方を対象に、事例を用いて概要から評価方法までお伝えいたしました。評価方法は簡便で、多職種やご家族と内容を共有する手段としても有用な評価であり、参加者の皆様からご好評をいただきました。

今後の予定として、12月には西多摩・南多摩ブロックと共催で認知症アップデート研修を開催予定です。みなさま奮ってご参加ください。

認知症にやさしい本の紹介　VOL.40

川崎市立宮前図書館　館長　**舟田　彰**

『わすれないでね　ずっとだいすき』

文/ジーン・ウィリス　絵/ラケル・カタリナ　訳/前田まゆみ　監修/筧裕介

約１年前の作品ですが、監修が『認知症世界の歩き方』の著者である、筧裕介氏ということを最近知り、選んだ。この作品は、５歳の男の子で孫の「ジョージ」と、５分前のことを忘れてしまうおばあちゃん「キャサリン」の物語です。少年は、おばあちゃんが認知症であることについてまったく気にしません。認知症の有無に関わらず、「キャサリンおばあちゃん」として向き合っているのである。どんなにおばあちゃんとの間で今までとは異なることがあっても。

おばあちゃんが「わたしったら、どうしてじぶんのまごがわからなくなったりするのかしら」と言いながら、とても悲しそうな顔になる。その時のジョージは一言「なかないで、おばあちゃん。だって　ぼくは　いつもここにいるから、いつも　おもいだしたら　いいじゃない」と“認知症のおばあちゃん”というような一方的な見方はしていない。

最後のシーン、孫のジョージはおばあちゃんが自分のことを誰なのか忘れてしまっても、大好きであることを覚えているということはわかっているということを感じ取っていた。孫とおばあちゃんとの間にある愛情が伝わってくる。

年齢とともに、あらゆる能力が失われはじめたとき、人間の心に最後に残るものはその人の性格、個性であることがわかる。この絵本は、人間にとって、一番大切なことを教えてくれた。

保険部　Letter
～障害福祉サービスにおける就労支援について～

保険部担当理事　**松岡　耕史**

作業療法士による障害者への就労支援を行う機会は多い。今回は障害福祉サービスにおける就労支援に関して、一部ではあるが内容をまとめたので知識の整理に役立てていただきたい。

＜障害福祉サービスの訓練等給付のうち就労系の内容＞

・就労継続支援B型（非雇用型）：一般企業での就労が困難な人に働く場を提供。賃金は工賃として活動の利益から支払われる。通所して生活リズムを立て直したい、福祉的なサポートがあれば働ける人などが対象。
・就労継続支援A型（雇用型）：最低賃金保障。一般企業での就労は困難だが、働くにおいて生活面の自己管理ができ、週20時間以上の労働が可能な人が主な対象。
・就労移行支援:一般企業などへの就労を希望している人が主な対象。利用期限は原則２年。工賃は基本出ない。
・就労定着支援：一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行う。

＜就労支援に関するその他の内容＞

・障害福祉サービス受給者証：障害福祉サービスの利用には「障害福祉サービス受給者証」が必要。市区町村の障害福祉課など障害福祉を担当する課にサービス利用の申請をして交付を受ける。
・介護保険サービスと障害福祉サービスの併用：通所や訪問介護など介護保険と障害福祉の両方にあるサービスは介護保険利用が優先。しかし、就労支援など障害福祉のみにあるものは障害福祉サービスが使える。

参考：厚生労働省「障害福祉サービスについて」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/service/naiyou.html

IT機器レンタル事業対象研修会「IT機器を活用した作業療法支援」

柳原リハビリテーション病院　作業療法士　**加藤　真吾**

この度はIT機器レンタル事業対象研修会に参加させて頂きありがとうございました。「福祉用具相談システム」「あいてぃたいむ」に登録させて頂き、改めて良い時代になったな、と嬉しく思っております。私は2008年頃、訪問リハビリでALSの患者を担当していた時に非常に苦労した事を思い出しました。伝の心を導入したのですが、デモ機など無かったので、病院所蔵の別の利用者から譲り受けたWindows Meの古い機体に古いリレーボックス、さらにスイッチを自作するために秋葉原にパーツを買いに行きました。もちろん、導入当初から上手くいくはずがなく、相談する人もいなかったので、試行錯誤と夜間きちんと操作できているかどうか常に不安を抱えていました。しかし今はこれらのシステムを利用する事で、IT機器デモの障壁が格段に低下し、しかもIT分野に精通したOTの皆様から直接アドバイスをもらえる事は非常に心強いと感じました。また、休憩時間にタブレット版のレッツチャットや視線入力スイッチを試させてもらい、技術革新に驚かされました。現在、私は管理職となり現場に出る機会が少なくなりましたが、自分の知識技術の書き換えと後輩への情報提供を行う事で、積極的にIT機器導入に挑んでもらうよう導いていきたいと思います。ただ、はんだ付けに関しては老眼によりかなり難渋してしまいました。現在52才。気持ちは30台なのですが、「ああ、年とったな…」と時の流れをしみじみ感じております。

自動車運転と移動支援対策委員会　活動報告

自動車運転と移動支援対策委員会委員　**青木　佳子**

当委員会では、第19回東京都作業療法学会の公募企画に参加し、講演・パネルディスカッションを行い多くの方にご参加者いただけました。

講演では警視庁運転免許本部高齢者対策課臨時適正検査係の後藤瑠衣様より「警視庁運転免許本部（臨時適正検査係）の役割と支援」についてお話頂きました。臨時適正検査の認識から実際の免許再開までの一連の流れ、認定医などを知る機会となり、OTの視点を深める機会となりました。アンケートでは「ご本人様やご家族様に運転が難しい理由について具体的に説明できると感じた」との声もあり、臨床現場で直面する運転困難事例の対応を広げる機会にもなりました。

パネルディスカッションでは急性期・回復期・生活期の６施設でそれぞれ関わる運転支援についての課題や展望、また連携にあたり、他領域への期待を含めた意見交換を行いました。急性期や回復期病棟で働く身体領域のOTが多く参加し、アンケートでは「それぞれの役割について知ることができた」「自分の所属と異なる領域での問題点を知り、わかりやすかった」との声が聞かれました。

私たちは今後、ＯＴだけではなく、医師・教習所・警察などの関連機関と連携を深めるため、多職種との合同研修会についても検討し、より良い移動支援の構築を目指したいと考えます。高齢者や障がい者が住みやすい地域づくりの一つに移動支援は大きな役割（意味）を持ちます。まずは東京都のOTが手を取り合って、シームレスなサポート体制を構築していきましょう。

今年度は２回の研修会を企画していきますので、ぜひ皆様ご参加ください。

就労支援委員会活動報告

東京都立大学博士後期課程　**牧　利恵**

就労支援委員会では、2023年７月２日に開催された「第19回東京都作業療法学会」の公募企画に参加させて頂きました。

今回は、「当事者から学ぶ就労支援～今、OTにできること～」というテーマを掲げ、当事者ご本人と奥様のお二人をお招きし、復職に至るまでに感じた『困りごと』についてお話していただきました。また、就労支援委員会の委員より、お二人が抱えていた困り事に対して自分だったらどんなことができたのか、提案をさせて頂きました。

当日は、約40名の方が聞きに来てくださいました。アンケートへの回答にもご協力いただきましたので、今回はその結果の一部を共有させて頂きたいと思います。

参加者の多くはOTで、中には作業療法学生や介護福祉士の方もおりました。OTの対象領域の多くは身体領域で次に精神領域と様々でした。参加された方の感想は、「就労支援の機会が少ないため当事者の声を聞きたかった」、「いずれは就労支援に携わりたい」など就労支援への前向きな意見が伺えました。そして参加者のほとんどが、「このような当事者の方の声を聞く機会はまだ多くはないためまた聞きたい」と回答されており、当事者からの声に深く耳を傾けることでより良い就労支援が実践できるのではないかと筆者も改めて強く感じました。

本企画にご協力頂いた当事者ご夫妻、当日ご参加いただいた皆様へ改めてお礼申し上げます。就労支援委員会では、今後も研修会などを企画してまいりますので、引き続き都士会のホームページなどをご覧いただけると幸いです。

「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」のお知らせ

【日　　時】10月６日（金）、12月８日（金）　＊いずれの日程も19：00～20：30
【定　　員】聴講：10名
【対　　象】東京都作業療法士会 会員
【参 加 費】：無料
【内　　容】当日は、就労支援委員会メンバーが事例を挙げ、就労支援委員会メンバー同士が支援方法などについて検討を進めていきます。参加者の方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実際を感じて頂きたいと思います。
さらに、事例検討終了後には、「質問コーナー」を設けており、日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。
ご興味のある方は、是非、お気軽にご参加下さい！
【申込方法】QRコード、または、URL：https://forms.gle/1WsxraVbVmTEXN3Y6
または、「東京都作業療法士会ホームページ　講演会・研修会・学会情報」よりお申し込み下さい。

都士会とOT協会における災害対策

保険部部長（OT協会災害対策課）　**門脇　優**

東京都作業療法士会（以下、都士会）の災害対策を進めるうえで日本作業療法士協会（以下、OT協会）との災害対策の連携は欠かせないものである。今回は都士会とOT協会の災害対策の連携の一部について紹介する。

OT協会の災害対策について

≪組織再編≫

これまで常務理事会の傘下の元、災害対策室として組織の一部を担っていた。2023年度より、OT協会では組織化の再編計画がなされている。現在、災害対策課として名前を変更し、他の部署と共に地域社会振興部の傘下として活動していく。

≪活動≫

大きな活動目的は、大規模災害への支援に関することが主となる。

・５か年計画とし、災害作業療法についての取り組みを実施。有事の活動だけでなく、平時より感染症を含めた複合災害に対しての備えとして、地域での作業療法士としての役割の整理と実践のために検討推進委員会を設立した。

・例年同様に災害時シミュレーション訓練や日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）など関連団体との活動協力を行っていく。

大規模災害を想定したシミュレーション訓練について

毎年、大規模災害を想定したシミュレーション訓練を実施しており、OT協会の要請に賛同した各都道府県士会（2018年度は37士会、2019年度は44士会、2020年度43士会、2021年度46士会、22年度47士会）が行っている。

都士会では士会員に向けて安否確認を行っており、今年も９月25日～10月末で実施予定である。

2022年度の訓練の際に安否・被災状況の確認ができた会員は1332名／2284名（58.3%）であった。

＜2022年度ブロック別実施率＞

区東部・東北部：74.4%	区中央部・南部・島しょ部：56.9%	区西北部：46.1%
区西部・西南部：54.7%	南多摩・西多摩：64.7%	北多摩：48.3%

これまでに全国で起きた災害発生時には会員の安否確認と会員が所属している各施設からの情報収集が行われている。実際の災害時に向けて今年も都士会や各ブロックの案内に従って以下のいずれかの方法でご参加いただきたい。

1．インターネット　［会員個人が入力］：都士会ホームページ上
2．都士会Fax　［各施設の代表者が返送］：各施設に送信されるFaxに安否状況を記載して返送
3．ブロックごとの安否確認：各ブロックの災害対策係が窓口となり、ブロック委員と協力して会員の安否を確認する
4．都士会LINE：登録されている会員へ直接LINEで連絡
5．災害時連絡用メール：登録されている会員へ直接メールで連絡

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

野尻　結子

暑い日が続いていますが、このニュースが届いている頃には少しずつ涼しくなっていると良いなと思う今日この頃。

私は、四年ほど前からブロックでの活動をさせていただいていますが、日々の業務の中でなかなか他事業所の OT のことを知る機会がないため、ブロック会議などでいろいろな分野の方の話を聞けることはとても楽しく、刺激をもらっています。相談ができ、情報を共有できる輪を作ることで、OT として利用者様にもっと良い情報・支援が提供できるのではないか！とより強く思えるようになりました。

西部西南部ブロックでは、各区で勉強会や顔合わせをする取り組みをしています。少しでも、気になる！自分もつながりを持ちたい！そんな思いをお持ちの OT の皆さま…ブロックのアドレスまでお気軽にお問い合わせください。（seibuseinanbu.ot@gmail.com）

区西北部ブロック

山野井　萌子

区西北区部ブロックでは、４月より令和６年に開催する第20回東京都作業療法学会に向けての準備を少しずつ進めています。これまで、第19回学会の運営会議や学会当日の様子を見学させていただき、話し合いを行ってきました。私自身は都学会のお手伝いをさせていただいたことがきっかけで、区西北部ブロックに所属することとなりました。普段は精神科の病院で働いていますが、リハ病院や地域など様々な領域のブロック員の方と一緒に活動させていただくことが刺激になり視野が広がっていると感じます。今後も準備を進めていくため、一緒に学会を運営していただける方を募集しています

（連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com）。

ぜひ一緒に学会を盛り上げられればと思いますので、よろしくお願い致します。

区東部・東北部ブロック

加藤　智也

当ブロックでは、８月４日に『病院・施設で“できるADL”を自宅で“しているADL”に繋げるヒント』というテーマで研修会を開催いたしました。

作業遂行の基礎知識や、実際の症例から目標設定のコツを学ぶ講義から始まり、後半はシンポジウム形式で、病院・訪問それぞれの分野に所属する３名のOTが、対象者のADLを繋いでいくために、どのようなポイントを意識して介入しているのかというテーマで討論をいたしました。終了間際まで活発な討論が繰り広げられ、皆様の臨床に対する熱意が感じられる研修会となりました。また、皆様が楽しそうにお話されている姿が印象的で、OTの楽しさ・らしさを共有できたように思います。

今回、新人の方～経験豊富な先生方、学生の方と幅広い層の方にご参加いただきました。御多忙の中、当ブロックの研修会にご参加いただき、誠にありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。今後もOTの楽しさを広められる研修会を目指して開催してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

区中央部・南部・島しょブロック

入道　恭平

今年、初めて学会運営側の立場から東京都作業療法学会に参加いたしました。今年の都学会は数年ぶりの現地開催ということもあり多くの人が来場してくださりました。新型コロナウィルス感染症の影響でなかなか会うことができなかった大学の先生方にも会うことができ、社会人として働くことができている姿を少しは見せることができたのではないかと思っています。学会中は大きなトラブルもなく無事に終えることができ安堵と達成感を感じました。運営の中心を担っていたリーダーの方々は私よりもいっそう感じていたと思います。

また、学会の準備をする中で他の病院や施設の方々と知り合い、お話しさせていただく中で介入での考え方など色々なことを勉強させていただきました。そんな様々な分野の人とつながることのできる区中央部･南部･島しょブロックではブロック活動を一緒に取り組んでいただける方を募集しております。ブロック活動に興味がある方がいらっしゃいましたら、こちらのアドレスまでご連絡いただければ幸いです。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

細山　泰子

当ブロックでは、座談会「ツドイノバ」の開催、勉強会の開催、掲示板「北多摩OTチャンネル」での情報発信を継続的に行なっており、今年度は「福祉まつり」への参加を予定しています。

「ツドイノバ」は、７月に「集まれ！新人OT」というテーマで開催し、約30名に参加していただきました。職場を超えたOT同士の良い交流機会となりました。今後は、10月「集まれパパママOT！」、12月「初心に戻ろう！私のOTの原点！！」、３月「今だから教えます！OTの動機づけ・褒め方の極意！」を予定しています。12月はツドイノバで初となる対面での開催も検討しており、より繋がりを深められる機会になること間違いなしです！

勉強会は、10月「医療現場以外でのOTの働き方！」、２月「MTDLP事例検討会」を開催予定です。座談会、勉強会へのご参加お待ちしております！

府中市で開催される「第43回福祉まつり」（10月15日）では、より多くの方にOTを知って頂けるような活動を行う予定です。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください！

これからもOTの魅力や楽しさを共有しながら、繋がりを大事に、北多摩ブロック委員一同、張り切って活動していきたいと思います。

引き続きよろしくお願い申し上げます。　連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

西村　亞希子

2023年４月より西多摩・南多摩ブロックに所属しております、西村と申します。職場以外のOTの方との交流機会を得たいと思い参加させていただきましたが、学びが多くいつも刺激をいただいております。

当ブロックでは、10月に「明日から活かせる！脳フェスから学ぶ、当事者の視点」というテーマのオリジナル研修を予定しております。地域のOT・当事者から病院で臨床をしている若手を含むのOTへ伝えたいことについて、よりよい研修会となるよう様々な議論をしております。９月中旬に申し込み開始予定ですので、皆様、是非ご参加ください。

また、12月３日には認知症アップデート研修も予定しております。

ブロックメンバー大募集中！ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。→ swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

教育部

現職者共通研修（３講座：日本と世界の作業療法の動向、実践のための作業療法研究、作業療法の可能性）

1．開 催 日：2023年10月８日（日）、10時30分～16時30分（延長の場合あり）
2．開催形態：Zoomによるオンライン研修
3．参 加 費：1,000円（OT協会及び都士会の会員、都士会の会員、OT協会及び他県士会の会員）
　　2,000円（OT協会・他県士会のみ、OT協会及び他県士会に所属していない方）
4．定　　員：各講座、いずれも80人
5．お申込みURL：https://onl.tw/25vkQu7
6．申込締め切り：2023年９月29日（定員に達し次第終了）

現職者共通研修
（４講座：作業療法における協業・後輩育成、事例報告と事例研究、職業倫理、保健・医療・福祉と地域支援）

1．開 催 日：2023年10月22日（日）、９時00分～16時40分（延長の場合あり）
2．開催形態：Zoomによるオンライン研修
3．参 加 費：1,000円（OT協会及び都士会の会員、都士会の会員、OT協会及び他県士会の会員）
　　2,000円（OT協会・他県士会のみ、OT協会及び他県士会に所属していない方）
4．定　　員：各講座、いずれも80人
5．お申込みURL：https://onl.tw/KhhDM9R
6．申込締め切り：2023年９月29日（定員に達し次第終了）

MTDLP基礎研修

日　　時：2023年10月９日（祝・月）　９：30～17：30予定
場　　所：ZOOM開催
対　　象：日本作業療法士協会員及び東京都作業療法士会員
会　　費：4000円

＊詳細は東京都作業療法士会ホームページをご確認下さい
＊現職者共通に関するお問い合わせ先：kyo.2ken@gmail.com（担当：二村）

編 集 後 記

６月17日には福祉用具部主催の 都立大学荒川キャンパスで行われたIT機器レンタル事業対象研修会に参加させて頂き、７月２日には順天堂大学で行われた久しぶりの対面での都学会に参加させて頂きました。また７月末にはようやく臨床実習指導者講習会にも参加することができました。学ぶ機会がたくさんあることは幸せなことですね。広報部では日々のニュースを遅滞なく皆様にお届けすることと、広報誌OTOでOTの皆様やOTでない方にOTの魅力を改めてお伝えできるよう、日々取り組んでいます。今後とも都士会を盛り上げていけるよう皆さんで頑張りましょう。　　広報部部長　水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会　事務局
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室
TEL：03-6380-4681　　FAX：03-6380-4684
◆東京都作業療法士会ホームページ　http://tokyo-ot.com/
◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com
※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。